Harvard Graded Direct Method Teachers' Group
News Bulletin
第 2 号　英語教授法通信　1957年12月12日

テストのいろいろ

吉沢美穂

小人数のクラスでは，あまりテストを行う必要がないこともあるが，現在の中学のように多人数のクラスでは，生徒の力を試すためだけでなく，授業の効果を確かめるためにもテストに頼らなければならないことが多い。

第一に，テストは学期試験というような大きなものを回数を少く行うよりも，むしろ exercise の形での小テストを回数多く実施することが望ましい。これは，生徒の成績評価を公平にするためだけでなく，試験に対する恐怖心を除き，いわゆる一夜ずけの試験勉強をふせぎ平素の勉強に重点をおく習慣を養うのに役に立つ。

第二に，これらの小テストは，進度に従って授業の効果を確めて，教師の反省の材料にするために，なるべく目的のはっきりしたものを作成しなくてはならない。すなわち，テストの目的以外の原因で成績が左右されることなく，テストしようとする目的の項目の結果が，直接表れるような方式に作成しなくてはならない。

生徒がテストに正解を出せない原因を考えてみると次の諸点をあげることができる。

1．問題のやりかたがわからない。英語で指示されている場合などにおこり易い。
2．問題の与えられた文章がわからない。
3．正しい答がわからない。
4．解答がわかっても，それを表現できない書く力の不足，spelling 等

以上の諸点を考えて必要な点だけをテストするようにすれば，生徒もむしろテストをたのしむようになる。

第三に，小テストを度々行う場合，テストに要する時間を最小限にし，授業時間にさしつかえないように計画することが必要である。また，教師の負担があまり多くならないように，採点に手間のかからないものでないと，長続きしない結果になる。

以上の諸点を考えて，従来行われているいわゆる Paper test の普通の形式以外のテストの形を二，三次にあげてみる。

English through Pictures, および Learning English Language の workbook にでている練習問題は，そのままテストとして用いることができるから， workbook を一回ごとに採点し，これをテストとして扱うことができる。L. E. L. の workbook の問題の一部は Teachers' Handbook にもでているので，これらの参照をおすすめする。

True-false： この種のテストは，社会科や理科などで，授けた一定の知識をためすのに有効な方法であるが，英語に利用する時は，何か制限をつくらないと，英語の力以外の要素によつて左右されることが多く，また生徒の常識の範囲から出題しようとすると，絶対的に true または false の文を作成す

7

ることが困難であり，またテストしようとする文型や単語を使いこなせない難がある。しかし，画や実物を使って situation を限定し，その situation に合致するものを true とし，しないものを false とすれば，下級用のテストとしては，非常に有効なものである。Oral でやれば，純粋な hearing のテストになるし，文をプリントして渡せば，これも他の要素を交えない reading のテストになる。また採点が簡単なので生徒同志にさせることもできるし，時間もかからない。但し，この種のテストに用いる文章そのものはすべて正しいものを用い，内容で true-false を判定するようにし，文そのものの mistake を捜させることのないようにしなくてはならない。

Drawing picture：このテストも oral でやれば，hearing，またプリントにすれば reading についてのほぼ純粋な結果が得られるごく初歩向きのテストであり，採点も簡単である。これは短い文によって次々と示される situation を次々と各自が画に表してゆくものである。例えば，はじめに半紙の四つ切り位の紙に部屋の outline を書かせる。ここまでは日本語で説明して一人もまちがわないように黒板に示す。次に，下記のような文章を一つずつ間をあけて読みあげて，それを図で示させる。

A table is in the room.
Books are on the table（一つ書いたのは誤り，二つ以上書けば正解）
There are two windows.
One window is open, and the other is shut.
A clock is on the wall.
The time is three.

Be 動詞と前置詞を使っていくらでも文章はできる。

Comprehension：これは中級以上に用いることのできる形式である。ふつうは少し長い reading material を読ませて，これについての true-false, multiple choice, または question-answer を行うもので，普通は reading-writing で行われることが多いが，これを material だけ，または後半のテストの部分だけを oral にすることもできる。しかし，これを hearing のテストとして行う時は，answer を書かせれば，そこに writing の要素が交って来て，純粋な hearing のテストにならないので，私は次のようにしてみた。すなわち，material に story のように筋のあるものを選んで聞かせたのち，その大要を日本語で書かせるのである。この方法は，始めから Direct Method で育って来た生徒にとっては，飜訳という要素が加わるのでかえって難しいということも考えられるが普通の訳読式をやって来た生徒の耳の力を知るのには大いに役に立っている

以上は，hearing のテストとして可能なものであるが，speaking のテストはどうしても一人一人やらなくてはならないので時間を取るが，これは教室の drill の時注意していれば，別にテストをする必要はあまりないことが多い。強いてするとなれば，実物または，画を用いて，示された situation に対する oral free composition をやることができる。一人一人の点をノートにメモする時間を除くためには，生徒のネームカードを用意して，drill しながらそのカードを机の上の置くときに三，または四段階に区別して，あとで結果を記入するようにすれば時間の節約になる。またこれを writing でやればwriting と発表力のテストになる。この種のテストで，教室ではあまり目立たないが，よく理解している成績のよい生徒を見出すことができる。またこの free composition に用い

8

る単語，phrase または文型を指定することもできる。

以上のほかパターン・プラクティスを応用したもの，ブランクをうずめるもの，半分ずつの文章を合せて意味を正しくするもの，文章と画とを合せるもの，無意味に並べた単語，または phrase を正しい文章に置きかえるものなど，訳を使わないでもテストの種類は数え切れないほどあるので，各位の御研究に期待してこの項を終りにする。

ニュース

10月定例研究会は10月21日（月），午後4時から6時まで，ルーテル英語学校で開かれました。9月に制度役員等をととのえてから最初の研究会でしたので，受付の机などもでき，会員も一そう張り切って出席しました。

津田塾大学教授 Miss Mary Chappell をお招きして，この夏，津田塾大学で行われた，米国 Brown University の Twaddell 博士の講演についての伝達講演を聞きました。Twaddell 博士は，米国でドイツ語を教えた経験から，外国語の学習が，歴史，地理等の他の学科の学習と違い，知識を得るだけでは役にたつものでないことを，自転車乗りの練習にたとえて説明し，言語そのものに関する知識よりも，それを使いこなす練習が大切であることを力説し，さらに次の点を強調されました。すなわち，注意深く用意された教材が必要なこと。よい model を imitate することが必要なこと。適切な advice や instruction が必要なこと。よい speech habit をつくるためには，thought habit から出発しなければならないこと。また教師については，正確さの方がりゆうちようなことより重要であることなどでした。

講演の後，個々の点について会員の盛んな discussion がありましたが，結極，細い点の取り扱い方には，我々の方法といくらかの違いはあるとしても，大きな方針，教え方についての意見は，全面的に一致しているという結論を得てこの研究会を終りました。

11月定例研究会は11月18日（月）午後4時からいつものようにルーテル英語学校で開かれました。ひさしぶりのデモンストレーション。まず渡辺せつ子さんが "You are learners." と言われたときは，一同どうなるかと思ったものです。やったところは "seem" のところ。何を答えていいのやら，まごまごしてしまいました。あとで infinitive の導入の仕方について discussion がありました。

片桐ユズルさんのデモンストレーションは小学5年生を使って before と after (conjunction) でした。まず前置詞としての用法から入りましたが，その細かい grading のよさ，発音の自然で正確なこと，大いに見習うべきと感じさせられました。生徒たちが，なれないせいか，はじめはうまく乗ってこないようでしたが，終り頃になると We said "Good afternoon, Mr. Katagiri" after you said "Good afternoon, boys and girls." というような長いセンテンスを小さな子が平気で言うのを見て大人たちはためいきをもらしたものです。生徒たちのイントネーションがまったく自然なのは，彼らが英語で考えているからであって，それがこのメソドの特長なのだ，とミス・チャペルがおほめになりました。Writing の練習として高木さんの発明になる単語の尻とりなど珍らしい方法も紹介されました。

この日の会は吉沢さんが風邪で，阿江さんがけがをなさってお見えにならず，いつもとちがった雰囲気でした。

今年度語研大会は11月9，10日，東京飯田橋専修大学講堂を会場として開かれ，千名近い参加者を集めて例年の如く盛会であった。

中学の公開授業は，特に新しい教授技術の発表というものではなかったが，oral questions に対し生徒諸君もよく答えていた。Graded Direct Method でやるように，situation を与えて，生徒自ら作り出すドリルを加味すれば更に活発になったであろう。

第二日の中，高，大学各部会で共通のテーマとして『社会の要求に応じた英語教育を行うにはどうすればよいか』が，主催者より提出されたが，中学部会では更に問題をしぼって，Graded Direct Method の講習を受けられたという日大附中F氏提議の『oral drill を継続してゆく上での問題点』に討議を集中した。上級になるにつれ，用語がふえ教材が複雑になり教師の実力や入試の影響により oral work が困難になるとの声に対して，上級でその量の減ることの当否は結論が出なかったが，何れにしてもポイントを押えてそれに集中すること，又 oral work の真義を追求実践してその概念規定を大巾にすることなどに解決のヒントが見出された。

ELEC で作成中の教科書が秘密主義であるという一部の非難に対し司会池永先生より関係者の立場から，『年間120時間として教師用を先に作っていること，Book one を継続しながら今 two に移っているが未完成の為発表の段階に至ってないのが実情であるから誤解しないでほしいこと，自分としては現場担当者の立場として生徒の興味に即すことを主張している』などの説明があった。

高校部会では，父兄も大学も社会でありその要望に応えることも社会の要望に応える道とも考えられるが，広く身につく英語という意味で問題の討議をしぼった。それには教科書と教師自身との二点に問題があるとし，前者については特に文法作文に於て文法が大部分で英語を身につける作業が少いのでこれを強化すること，参考書等も30年前の古い文体は訂正を要すること，structure の drill を加味したよい教科書参考書の作成が望まれた。

大学部会では第一日公開授業（大学）のかなりきびしい検討のあと，実用英語と教養面との対立については，話し，書く等の力が教養を得る手段を授けている。又2．その技術自体が教養を授けていることになる。という考え方が参考となった。

又東京外大心理のA氏より入試に見た心理として，1．英語の力と理数科の力は別系統のように考えられているが，英理の相関は大きく，今年度教育大の例では英数の相関の方が英国の相関より大きかったこと，2．全般に浪人一年がよい成績で合格するが，特に優れた成績を示す者はその年度の卒業生である，但し英語は長く浪人した者程成績がよくなっている。等の興味ある報告があった。

最後に要旨次の如き決議があった。

1．大学の一般教養課程に於ては教養面ばかりでなく，実用面も考えて現代文を多くし，読解力だけでなく話し方にも力を入れる。

2．入試問題の作成に当っては中学高校の英語教育の目的に即したものへと努力する。

第七回全国英語研究会は11月14～16日，名古屋南山大学講堂に全国津々浦々の団体代表千余を集めてこれ亦盛会であった。第一日文部省宍戸先生の講演は広くわが国の教育制度教育課程変遷の動きの上から英語科の現状を解説された後，英語指導については先生方の精力の最善活用と効果的指導を強調され，Pattern Practice については Method の為に子供を使うのでなく，Method の方を子供に利用して行くこと，中，高，大学の連絡についてはお互いに暖い心で協調し合い，生徒を全人的に見て指導して行くことなどを，

ユーモアとゼスチアたっぷりに満場を湧かせて語られた。続いて立つ石橋教授は，我が国英語教育技術が先進国のそれに比して30年も遅れていて，効果が上ってなかったとする説に対して，安政の昔以来本邦英語教育史をひもといてこれを反論し，明治以来の方法は決して無駄でなかった。その時代の国情に合っていた。今はその使命は終った。今後は聞く話すにも力を入れた方法を考えるのが我々の行き方である。色々なことを言われても決してびくびくすることはない。我々の努力が足りなかったのでもない。各種の oral による指導もかなり行われている。切角始めたものを続けることだ，色々の困難もあろうが実行せねば現状は脱し得ぬ。云々と，万丈の気焔を吐かれ，我々 Graded Direct Method を推進しようとする者にも一しお感銘が深かった。 (K.N.D.)

F・J・ダニエルズ氏（ロンドン大学日本語科主任）が11月30日東京アメリカ文化センターで，「ホンヤク」について講演した。氏は戦前日本にあり，はじめはベーシックに反対であったがたまたまオグデンの *Basic Words* などを見て，その言語分析の立派さに感動し，日本語のベーシック英語訳辞典を篇纂した人である。この日は，詩のホンヤクにおける量感の一致のため，素音，シラブルの乗数値を利用する私案を語ったのち，辞書の問題に言及，また目的によって辞書の種数をふたつにわけた。即ち Dictionaries for readers と Dictionaries for transtators である。特にホンヤクのための辞書は，可能性のあるあらゆる訳語をのせなければならない。

日本語の英語訳辞典を作る場合その文脈によって，おそらく無数の英語訳が考えられ，すべてを網羅することは，不可能に近い。しかし，ベーシックによれば，言数は限られているし，これが可能であることを例をあげて説明した。このあと，日本では大学まで数年英語を学んでもモノにならない原因について質問があり，ロンドン大学の日本語科では，日本語だけを徹底的に教えているから，そこで3年日本語を学んだ人が日本へ来ても大丈夫やって行けるほどの力がつくということだった。(K.)

テレビ評

思わぬ怪我でギプスをはめる仕儀となり，おかげで毎週金曜午後1時N.H.K.のMoore先生の T.V. 英語教室をゆっくり拝見できた。何といっても日本人の先生の追随を許さぬ点があることは確かだ。 "How do you do, boys and girls!" と微笑して相手の眼をじっと見つめる表情は生徒を魅きつけるに充分だろう。それに生きた言葉なのだから native speaker にじかにふれる御利益は大きい。発音自体は勿論，それが出てくる直前の口の動きと形，発音の時の息の洩れ具合などはっきりわかって有益である。

しかし Graded Direct Method を学んだものには教授内容の選択や，建設的であるべきその組立方法に幾分うなずけない点がある。各 lesson plan の主眼点がはっきりしないし，発展性がない。なる程話題は毎回関連があって統一されていることはわかるが，不用意に使はれる種々の形の文章や言いまわしは幼い生徒を当惑させないか。次にただでも20分には多種すぎる内容が盛られているのに，絶えず助手の日本語が時間を費している。この通訳は生徒の hearing の力を弱め英語の sound を破壊して有害ではないかとさえ思う。英語だけを使ってわからせることに努力したら， lesson の grade もかえって建設的に改善されるのではないか。

しかしこの放送開始当初に比べると実際の objects の利用などにも進歩の跡が著しい。

毎回目新しい guest を連れて来たりたえず工夫研究を重ねていられる点には敬服する。外国人に接する機会のない生徒がこの T.V. 英語教室を利用できたら一層得るところが多いと思う。(阿江美都子)

Suggetion box

時事問題を教材に：生徒の興味を高めるために，時事問題を教室に取りいれてみました。他の方がたもすでにやっておられると思いますが，御参考に供します。

He, She の練習の時，写真を見せたり，口で名前を云って有名な政治家などを使います。Mr. Kishi is a man. He is a man. というように。

Go のところ (p.29) では岸首相などの外国行きを。Is, was (p.15) でも同様，またネール首相父娘の来日などを，これは with, together (p.39) のところでも使いましたし，Come (p.60) まで進めば更に範囲が広く使えます。

See (p.40) の処では，学校の映画教室で見た映画のことを映画の名前は日本語のまま用います。

Earth Satellite というような単語は難しい言葉ですが，生徒の興味が深いのですぐ覚えました。p.175 から p.200 前後にかけては絶好の材料です。May を使っては月世界旅行を話し合いました。限られた文型と単語を使って時事問題の一端にふれることができた時，生徒の顔も輝いています。(伊木英子)

Questions のドリルをするにはどうしたらいいか迷っていたとき，Fries 博士の *Patterns of English Sentences* を見て思いついてやってみました。

まず一枚の絵をみせて，生徒Aをさしました。

A : That is a picture.

私 : Question, Bさん.

B : Is that a picture ?

私 : Answer, Cさん.

C : Yes, it is a picture.

このやり方で be 動詞を何回かしてから，他の動詞の未来形と進行形でもやらせ，生徒にささせるようにしました。生徒Dを前に出して，

私 : You will go to the door.

D : I will go to the door.

E : She will go to the door.

私 : Question, Fさん,

F : Will she go to the door, Gさん ?

G : Yes, she will go to the door.

というように。

少しキカイ的になるキライがありますが，全部の生徒が，質問を行うチャンスを持つことができました。ただし，だれないうちに切り上げることが必要です。又，次のようにもやってみました。生徒Hに鉛筆を何本か持たせました。You will give a question.

H : Are these pencils, Iさん ?

I : Yes, they are pencils.

今度はIさんにペンを一本もたせました。

I : Is this a pencil, Jさん ?

J : No, it is not a pencil. It is a pen.

Jさんは，もう私が持たせなくても，自分で本を持って，Is this a book, Kさん ? と質問することができました。(片桐ヨウコ)

広　告

時間講師そのたなんでもパートタイム・ジョブやりたし。杉並区大宮前3—104石井文子

求小学生向個人かグループ教授，大岡山近く。(49)6206目黒区三田54　本間　幸子

Basic English 協会(渋谷区原宿2—170)の室勝先生のベーシック英作文講習会においで下さい。お問合せは往復ハガキで上記へ。

Question Box

Q：学校でなくても企業内で従業員の英語教育に G.D.M. を適用されないでしょうか？

そのため講習に教員でない者でも英語の理解力があれば参加できるでしょうか？

神戸であったような5日間講習の予定はほかにありませんか？

G.D.M. の guide book は？

（日立造船・大山）

A：もちろん出来ます。今までも会社のエンジニアにこの方法で教えたこともありますし，自衛隊の英語教育も一部分G.D.M.にもとずいています。英語を読めて書ける場合には話せるようにするのに非常に効果があります。それよりも，また大人でも初心者ならば，更に大きい結果を得られる。ただ(1)適当な先生を得ることが絶対必要です。それと(2)職場ではとかく学校のような強制力がないのでルーズに流れがちですから，出欠を厳重にすること。この方法の一番大切な grading によって一段一段つみ重ねていく過程がこわされてしまうからです。

講習にはもちろん英語の力と教える意志さえあれば，どなたでも参加できます。講習は例年4～5月に毎週1回約8週間つづきのものが東京ルーテル英語学校で行われてきましたが，来年度の予定はまだ決っていません，次号でお答えできると思います。神戸式の5日間集中的講習についても未定です。

G.D.M. の教師用書は *Teacher's Handbook for English through Pictures* by Mioko Yoshiza wa, ¥360.

なお一度英語を習ってきた年長者をこの方法で教える場合に注意すべきこともいろいろありますが，長くなりますので項を改めてお答えしたいと思います。

etc.

阿江さん負傷：11月9日午後5時頃新宿付近の歩道上で停車中のトラックの後を通ろうとした時，急にバックしてきたトラックと壁の間にはさまれて肩に全治4週間の骨折という重傷でしたが経過は良好。

小安さん：11月13日玉のようなお嬢さんのお母さんになられた。

文化学院では阿江さんと小安さんがお休みなので吉沢さんと渡辺せつ子さんのピンチヒッターによって授業が行われています。いままで出来る生徒は難しい問題，出来ない生徒はそれなりにふさわしい問題をあてられていたのに，こんどは知らない先生からカードでばりばりあてられるので，大恐慌だそうです。

A First Workbook of French (Based on *French through Pictures*) がポケットブックで出ました。ぜんぜんはじめての外国語をこの方法でやったらどんな気持がするか，*Through Pictures* とこの *Workbook* とすばらしい LP のフランス語のレコードもありますから，やってごらんになると面白いと思います。ほかにドイツ語，イタリー語，スペイン語，ヘブライ語とヘブライ語の書き方の本などもあります。

月例研究会は特に通知のないかぎり毎第3月曜日4.00—6.00ルーテル英語学校で行います。当日の会場費50円，会員以外の方でも出席できます。

入会希望者は1年分会費 200円を同封して杉並区井荻2—106片桐ユズルまで御一報ください。会員には会報(季刊)と；研究会場，日時など変更の場合は通知をさしあげます。

編集部から

☆広告・質問・ニュース・すてきな idea などあったら，ぜひお知らせください。お待ちしています。電話(39)6530都立杉並高校，または(38)7141—3（女子美大）どちらもカタギリまで。

☆12月の例会は16日4:00—6:00p.m. 新宿メイフラワーでクリスマス・パーテイです。会費 300円

☆次号は，1958年4月頃の予定で，入学試験問題批判を特集したいと思います。そのおつもりで，問題を集めたり，感想，批評など心がけておいて下さい。

Harvard Graded Direct Method Teachers' Group News Bulletin No.2　1957年12月16日発行
発行者：Harvard Graded Direct Method Teachers' Group
編集者：片桐ユズル
杉並区井荻2—106

English through Pictures……¥170
First Workbook of English……¥240
Teacher's Handbook for English through Pictures by Mioko Yoshizawa……¥360
Anglophone Records for *English through Pictures*, Series Ⅰ and Ⅱ…約¥11,400 each. 御注文うけてから，1～2ケ月でお手もとに届きます。
東京都中央区日本橋高島屋5階　**チヤールズ・E・タトル商会**　電話千代田（27）9929

英語を主とした高校課程

Harvard Graded Direct Method による

独特の組織的英語教授法で徹底的に
基礎をかためた上で内外の先生達の
指導の下に実際に役立つ英語を修得させる

Harvard Method　阿江美都子
担当　小安　総

1958年度入学

申込受付 1958年1月10日より

文化学院英語科

東京都千代田区神田駿河台2～5　国電お茶の水駅下車
Tel.(29) 2274, 2275

14